

食料経済学特論演習 I (2単位)

担当者氏名 竹内重吉・菊地昌弥

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

近年、世界の食料需給はひっ迫し、フードシステムや食生活の変化など、食料を取り巻く状況は大きく変化している。この様な中、安全な食料の安定的確保、食料安全保障、食品偽装や食品への異物混入等食品をめぐる諸問題など多くの課題への対応が求められている。本演習ではこうした課題に対し、食料経済学の視点から専門的知見と論理的思考力を養う。さらに、課題に対するアプローチの方法や分析手法を身につけ、課題への対策や改善方策を提案できる力を養うことを目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

<u>食料問題</u>	<u>フードシステム</u>	<u>農業問題</u>	<u>食料経済学</u>
<u>調査分析</u>	<u>クロス集計</u>	<u>経営分析</u>	<u>数理計画法</u>

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	本演習のアウトライン (第1週)	・本演習の概要を説明し、実践課題や演習の到達目標等について理解する。	◎授業後は復習を行い、各内容について十分理解すること。特に分析手法については理論や課題を復習し、講義中に課題が終了しなかった場合は、宿題とする。また、課題の報告については、事前に報告の練習を行い、報告の論点について自身の考えを整理することが重要である。(毎回の準備・復習時間は、それぞれ1~2時間程度を目安とする)
2	食料問題、農業問題の現状 (第2週)	・近年の食料や農業を取り巻く諸問題について理解し、対策の方向性等について議論する。	
3	調査分析の方法 (第3~4週)	・食料問題の調査に必要となる社会調査分析の方法(考え方、現地調査の方法、調査票の作成など)について理解する。	
4	分析手法の理論と実践 (第5~10週)	・課題へのアプローチに必要となる分析手法(クロス集計、経営分析、数理計画法など)について、各手法の理論を理解し、PC等を用いて分析課題を実践する。	
5	分析課題の作成と実践 (第11~13週)	・学んだ分析手法を用いて、自身の模擬課題を設定し、分析の実践、報告資料の作成を行う。	
6	課題の報告、議論 (第14~15週)	・各自の課題を報告し、その結果や対策案について議論を行う。	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

講義資料を配布する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

食料経済：フードシステムからみた食料問題／高橋正郎／理工学社 (2010年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業中の演習 (30%)、授業中のディスカッション (30%)、課題のプレゼンテーション (40%)

◆オフィスアワー

毎週木・金曜日の 16:15-17:30、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり、受講生の知識、分析能力等の状況に応じて適宜、指示する。